

原 はら 幸子 こうこ

県議会
活動報告



建設委員会県外調査(長野県・富山県・石川県) H30.7.17~20

Topics
注目!

ラウンドアバウト本村円交差点 (長野県安曇野市 H30.7.18)

幹線道路整備における変則交差点の改良手法、ラウンドアバウトを視察。今回視察したのは平成27年4月に開通した最近では最も新しい長野県安曇野市にある「本村円(ほんむらまどか)」交差点です。

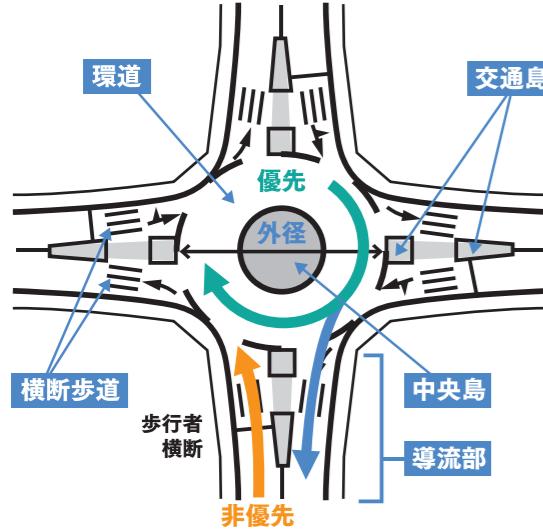
ラウンドアバウトとは環状交差点のこと、交差点の中央に円形地帯(中央島)を設け、車両はこの中央島に沿った環状の道路を一方向に通行し、行き先の道路に流出します。

ラウンドアバウトの有効性は少なくとも
4つあると言われています。

- ① 交通事故減少による安全確保
- ② 渋滞減少による交通の円滑化
- ③ アイドリング時間の減少による環境負荷の低減
- ④ 災害時の有効性。



ラウンドアバウトの概念図



限られた予算で安全安心なまちづくりを行う上で非常に有効な手法で、また災害に強く、信号機を必要としない災害に強い交通管理、ライフサイクルコストが低減できるメリットがあることから安全安心な効果が発揮される。秋田県での導入も今後必要とされてくるのではないでしょうか。

お知らせ 原則毎週木曜日(AM10:30~PM3:30)は旧仙北町の事務所にありますので、お茶など飲みにいらしてください。

自由民主党 大仙市第五支部

〒014-0112 大仙市板見内字弥兵衛谷地238
電話 0187-69-3030

県民と自由民主党会派をつなぐ

Link リンク

2018.10 No.33

— 力を結集し、次の時代を切り拓く —

ごあいさつ

日頃より、秋田県議会自由民主党会派に対するご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

私たち自民党会派は自民党県連とともに、本年を総選挙における国民の皆様との約束を着実に実現する「実行の年」と位置づけ、確かな未来を創るために総力を挙げて、成し得るべき責任を果たし、国民の負託に応えていく覚悟です。

私たちは、県内の景況を注意深く見守り、刻々と変化する環境により生じる数々の課題を的確に捉え、県や市町村が目指そうとしている地域づくりを支援するとともに、県内各地域・各企業団体などの要望の実現に力を尽くし、県経済の発展と県民生活の向上に向け、一直線に邁進して参ります。

県民の皆様が取り組まれてきた県勢発展と活力ある地域社会形成のための活動に心より敬意を表し、今後のさらなるご活躍をご期待申し上げます。



浅川ダムを視察(長野県 H30.7.17)

浅川は長野県北部の市街地を流れる延長17kmの一級河川。流れが急であることなどから、この地域では水害が頻発していました。さらには、流域は都市化が進んでおり、河川が氾濫した時の被害は甚大だと予想されていました。長野県は浅川にダムを設けることを計画し、1977年に実施計画調査を行い、2010年3月から工事に着手し、2017年3月から運用が開始されました。治水安全度を年超過確率1/100と定め、森林整備や遊水地、溜池利用などダムによる対策も含め、様々な治水対策を住民参加のもと立案・検討した結果、河川改修と治水専用ダムを組み合わせ完成しました。

「流水型ダム」にすることにより、普段は川に水が流れ、土砂の流下や魚の遡上を妨げず、ダムに水を貯めないことから富栄養化などの水質悪化はありません。それでいて洪水の時には水を貯め、下流の被害を防ぐことができます。また、ダム内に水が流れる穴(常用洪水吐き)には、魚が遡上しやすいよう魚道の設置がされている環境に与える影響を軽減する「環境にやさしいダム」でした。



◎コマツ粟津工場にて 7/20



このたび、西日本を襲った「数十年に一度」と思われる記録的な豪雨災害、また震度7を観測した北海道地震により、お亡くなりになられた多くの方々に心からお悔やみを申し上げますと共に被災された方々にお見舞い申し上げ、被災地の一日も早い復旧復興をお祈りいたします。



災害は、いつ、誰が、どこで、遭遇するかわかりません。何かあったとき、自助、共助、公助の精神で、乗り越えていく必要があります。**1番怖いのは、慣れ**ではないでしょうか。先日の大雨の時に自宅近くの道路が冠水のため「通行止め」の看板が置かれていましたが、周囲を確認しながら看板を寄せ、冠水の中を走り去った方がいました。何も起らなかったからよかったのですが、あってからではもう遅いのです。何もない時にこそ、何かあった時のために最低限の準備は必要と考えます。そして、災害はつらいことですが、受け入れるしかありません。

私は稲刈りの季節が1番好きです。稲を刈った後の田んぼには独特的の匂いがあります。その匂いを嗅いでいると、心がほっとします。ずっとこの田園が残ってほしいと願うとともに、農作業に従事している人たちが高齢化している姿を目の当たりにし、5年、10年後の地域を考えると暗い気持ちになります。ある本の中には、10年、20年後の日本人は野菜を食べられなくなると書かれています。日本は人口減少が続きますが、世界は爆発的な人口増になります。

その時、いくらお金があっても、自国民が飢えているとき、他国の国民の為に食料を売ってくれるのか?とシンプルなことです。

AIが発展し、植物工場で、食物が天候、季節に関係なく作られている世の中になっているのか?食料戦争が起きているのか?どんな未来なのか?

次の世代が飢えることのない世界であることを祈っています。